

〔大阪城南女子短期大学研究紀要 第58巻 47 ～ 60頁 令和6年3月〕

様々な楽器演奏がうたの技術向上に与える影響

— 歌唱の観点から —

油井 宏隆・山田 千智

〔論文〕

様々な楽器演奏がうたの技術向上に与える影響 —歌唱の観点から—

油井 宏隆・山田 千智

1 はじめに

保育士養成校の音楽教員として学生に対して指導を行う中で、たくさんの音楽の伸び代と可能性を感じることがある。多くの学生がピアノに苦戦する中、即興で演奏ができてしまう学生や、コーラス部のような声で童謡を歌う逸材、音楽大学に行っても良かったのではないかと思える、磨けば光る原石と感じる音楽的素質を持つ学生も一部存在することは音楽教員として喜ばしいことだ。

昨今においては各家庭にピアノを所有していることは少なくなり、年々ピアノ経験者が減ってきている傾向は否めない。これらはピアノを用いての歌唱活動にも関連するもので、音楽や歌唱経験には大きくマイナスとなっている。一方、ピアノ以外での楽器経験としては、吹奏楽部や小学校でのクラブ活動、地域活動などにおいて楽器の演奏をしてきた学生は半数を超えている。

これらの楽器経験がある学生と経験のない学生ではこれからの音楽、そして歌唱技術向上にどのような結びつきと影響を与えているのか。また、音楽と保育をどのように捉え、関連付けているのかをアンケートデータを基に、様々な楽器演奏の体験がどのようなきっかけとなり、歌唱に結びついていくかについて考察していく。

2 概要

1) アンケート方法

1 回生の授業「うたと音楽（基礎）」前期 15 回目 1 限・2 限において Google form を使用して学生 59 名に以下のようなアンケートを行った。

【① アンケート用紙】

様々な楽器演奏がうたの技術向上に与える影響
質問項目

1. 今までに楽器を演奏したことがありますか？

① ある ② ない

・あると答えた人は何の楽器を何年演奏しましたか？ ※複数回答可

樂器 () () ()

何年 () () ()

2. 楽器を演奏するうえで（ピアノも含めて）何がむつかしいと感じますか？

① 楽譜が読めない ② 鍵盤などの位置が分からない ③ 音が出ない

④ 指使いが分からない ⑤ きれいな音が出ない ⑥ その他 ()

3. うたは好きですか？

① とても好き ② まあまあ好き ③ どちらでもない ④ あまり好きではない ⑤ きらい

4. うたに関してむづかしい部分はあるところですか？

① 高い声が出ない ② 音程が取りにくい ③ 楽譜が読みにくい ④ 息が続かない

⑤ 人前で歌うのが恥ずかしい ⑥ その他 ()

5. うたを練習する時にピアノを弾いて音採りをしたことはありますか？

① ある ② 時々ある ③ 全くない ④ どうしたらよいかわからない

⑤ 楽譜が読めないのでわからない

6. 音楽（うた）の授業が実習などに役立っていると感じますか？

① 感じる ② まあまあ感じる ③ どちらでもない ④ あまり感じない

⑤ まったく感じない

7. 楽譜を読むことに関してどんな感じですか？

① 難なく読める ② まあまあ読める ③ 読みにくい

④ ト音記号は読めるがヘ音記号は読めない ⑤ 全く読めない

8. 好きな童謡ベスト5は何ですか？

1 曲目 () 2 曲目 ()

3 曲目 () 4 曲目 ()

5 曲目 ()

9. これから音楽を保育にどう関連させていきたいですか？

ご協力ありがとうございました
音楽教員一同

アンケートに関しては、ほとんどの学生が5～10分で送信できていた。中には授業中には記載することができないほど真剣に打ち込む学生や、色々悩んでいるうちに制限時間が過ぎ、また最初の項目から入力を行わなければならない学生も存在した。それでは次に各項目に関して考察していく。

2) それぞれの設問と集計結果及び回答

各項目に関して多くは選択式とし、記述式もいくらか用意して学生の興味と感心について記載する。

(1) 樂器演奏經驗

まずは論文のタイトルにも「様々な楽器演奏」とあるように、どのような楽器体験があり、どのくらいの年数習っていたかについての質問を行った。回答に関しては幼小中でのクラブや放課後活動、地域活動、授業での体験とみられるものが多く寄せられている。中には習い事として長い年月をかけて熱心に打ち込む姿も見られた。

【② 問 1 の質問内容】

1. 今までに楽器を演奏したことがありますか？

① ある ② ない

・あると答えた人は何の楽器を何年演奏しましたか？ ※複数回答可

樂器 () () ()

何年 () () ()

この項目においては「ある」と答えた学生が 59 名中 43 名 (73%) であり、「ない」と答えた学生が 16 名 (27%) という結果となった。また、何らかの楽器を演奏していた学生が約 73% と 7 割を超える。

保育を希望し、小さいころからあこがれを持つ学生にとって、音楽と保育の関わりを幼い頃から必要と感じ、早い段階から色んな楽器を習得する必要性を感じているケースもみられる。小中高での音楽の時間や、放課後活動、習い事での楽器体験や地域活動の取り組みが、学生たちの礎として保育音楽にも役立ち自信となっていることがうかがえる。

それでは次に、その問1の「あると答えた人は何の楽器を何年演奏しましたか？※複数回答可」に関しては以下のような回答が寄せられた。

【③ 問 1 の集計結果】

ピアノ 22 名 (3 年 2 名 4 年 1 名 6 年 1 名 8 年 1 名 10 年 1 名 13 年 2 名)
 ※ピアノとだけの記入が 14 名
 リコーダー 17 名 鍵盤ハーモニカ 15 名 太鼓 (大太鼓・小太鼓) 15 名
 鍵盤ハーモニカ 15 名 木琴 13 名 鉄琴 13 名 ハンドベル 7 名 クラリネット 5 名
 ギター 4 名 琴 3 名 アコーディオン 2 名 サックス 2 名 トランペット 2 名
 未記入 16 名

ピアノ以外の楽器に関しては継続年数の記載はなかったが、幼少での音楽の時間においての楽器経験の記述や、中高で行ってきたブラスバンド経験者は保育学科の面談時に多くの学生が経験していることが確認されている。

また、ハンドベル 7 名に関しては、幼児教育コースの高校生が音楽授業時に体験しており、将来の保育を見据えた計画的配慮による授業体験において、ハンドベルの必要性を早いうちから認識させ、将来実践できることを主眼に置いている。

(2) 楽器演奏のむづかしさ

次に、楽器経験を重ねる中でのむづかしさはどんなことにあるのかについて考察していく。

【④ 問 2 の質問内容】

2. 楽器を演奏するうえで (ピアノも含めて) 何がむづかしいと感じますか？

- ① 楽譜が読めない ② 鍵盤などの位置が分からない ③ 音が出ない
 ④ 指使いが分からない ⑤ きれいな音が出ない ⑥ その他 ()

以下に集計結果をまとめる。

【⑤ 問 2 の集計結果】

<p>① 楽譜が読めない 23 名 ② 鍵盤などの位置が分からない 2 名 ③ 音が出ない 0 名 ④ 指使いが分からない 14 名 ⑤ きれいな音が出ない 8 名</p>	<p>⑥ その他 ・パッと楽譜が読めない ・リズムが難しい ・速い曲を弾くと指が絡まる ・体が上手に動かせない ・読むのに時間がかかる ・慣れるのに必死</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

楽譜が読めないと答えた学生が 23 名と全体の 39%を占めている。しかし楽譜が読めないと言う学生の多くは、ト音記号を読むことはできるがヘ音記号を見ると拒否反応を起こしてしまう「ヘ音記号症候群」のような症状を抱えた学生が多くみられる。

また、学生の中には幼少期よりピアノや電子オルガンをコードで演奏することを優先して教える教室に通った学生も少数いる。これらの学生は楽譜通りの演奏は苦手であり、コードでの演奏（コード弾き）を優先して行ってしまうケースがみられ、楽譜を見ることに苦手意識を感じていることが多い。

その他の項目においては、やはり楽譜への読解力不足が記載されており「楽譜が読めない」という楽譜に対しての苦手意識が保育学科生に多いことが、このアンケート調査からうかがうことができる。

(3) うたの好き嫌い

次に、歌唱について好きかという設問を行った。

【⑥ 問 3 の質問内容】

3. うたは好きですか？

① とても好き ② まあまあ好き ③ どちらでもない ④ あまり好きではない ⑤ きらい

以下に集計結果をまとめる。

【⑦ 問 1 の集計結果】

① とても好き 23 名 ② まあまあ好き 17 名 ③ どちらでもない 14 名
④ あまり好きではない 5 名 ⑤ きらい 0 名

うたうことに関して「とても好き」「まあまあ好き」という好き側の回答が 68%と 7 割近くを占め、嫌いの回答は 0%であったことは喜ばしく、保育を志す者にとってうたは必要不可欠な傾向にある。

しかし授業時等においては年々学生の声量が小さくなり、歌唱技術が低迷していることが問題視される。核家族化や Web 等の遊びも増え、住宅の構造などからも大きな声を出すこと及び大きな声で歌をうたうことが難しくなってきたこと、色々な習い事などにより、うたう機会が減っていることが大きな原因だと考えられる。

(4) うたの難しさ

続いてうたに関して何が難しいのかという部分を、それぞれ選択及び一部記載での質問を行った。

【⑧ 問 4 の質問内容】

4. うたに関してむづかしい部分はどんなところですか？
 ① 高い声が出ない ② 音程が取りにくい ③ 楽譜が読みにくい ④ 息が続かない
 ⑤ 人前で歌うのが恥ずかしい ⑥ その他 ()

以下に集計結果をまとめる。

【⑨ 問 4 の集計結果】

① 高い声が出ない 19 名 ② 音程が取りにくい 4 名 ③ 楽譜が読みにくい 2 名 ④ 息が続かない 7 名 ⑤ 人前で歌うのが恥ずかしい 20 名	⑥ その他 ・低い声が出ない 2 名 ・ミックスボイスが出ない ・特になし 2 名
-------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------

「人前で歌うのが恥ずかしい」20 名 (34%) が最も多く、次に「高い声が出ない」が 19 名 (32%) の結果となっている。この 2 つに関しては関連性があり、高い声を出す時の裏声（ファルセット）にチェンジする際に色んなケースにより、声がひっくり返る現象が起きる。実声（地声）から裏声（ファルセット）にチェンジすることは感覚的なテクニックが必要だが、ひっくり返ることが恥ずかしいと気にする学生が多く、それが原因で大きな声（声量）を出そうという気持ちに歯止めがかかってしまう事が要因として考えられる。

(5) ピアノを弾いてうたの音採り

次に歌を練習する時にピアノを弾いて音採りを行っているかを訪ねてみた。

【⑩ 問 5 の質問内容】

5. うたを練習する時にピアノを弾いて音採りをしたことはありますか？
 ① ある ② 時々ある ③ 全くない ④ どうしたらよいかわからない
 ⑤ 楽譜が読めないのでわからない

以下に集計結果をまとめる。

【⑪ 問 5 の集計結果】

① ある 8 名 ④ どうしたらよいかわからない 6 名	② 時々ある 15 名 ⑤ 楽譜が読めないのでわからない 3 名	③ 全くない 26 名
---------------------------------	-------------------------------------	-------------

音感を育てる上でピアノを弾いてメロディーをたたきながら歌い旋律（音程）を正確にとるための作業は、歌唱練習において大切な作業だ。しかしそれを行ったことがある学生が8名（14%）という結果は残念なことだ。そこまでの指導、及び要求を行う教員や指導者は少なく、一部の専門家以外は音程（音感）の重要性をあまり感じていない。また学校においては鍵盤（ピアノ）の数が少なく奪い合いとなってしまうことも鑑み、それができないという現実も存在する。

（6）音楽（うた）が実習などに役立っているか

次の質問では音楽の授業時におけるうたの重要性に関して学生たちはどう考えているかを5択で質問している。

【12 問6の質問内容】

6. 音楽（うた）の授業が実習などに役立っていると感じますか？

- ① 感じる ② まあまあ感じる ③ どちらでもない ④ あまり感じない
⑤ まったく感じない

以下に集計結果をまとめる。

【13 問6の集計結果】

- ① 感じる 25名 ② まあまあ感じる 22名 ③ どちらでもない 11名
④ あまり感じない 1名 ⑤ まったく感じない 0名

実習においては施設実習以外、ほぼ毎日うたを歌っている現状を学生たちは目の当たりにすることで、音楽（うた）の授業の必要性を実感することとなる。「感じる」や「まあまあ感じている」など、感じている側に回答した学生は約8割を占め、その割合は音楽（うた）の重要性とうたが人を引き付ける力を実習等で実感している。

（7）楽譜読解力

続いて音程と同じように楽譜を読むことに関しての学生たちの読解力について質問を行った。

【14 問7の質問内容】

7. 楽譜を読むことに関してどんな感じですか？

- ① 難なく読める ② まあまあ読める ③ 読みにくい
④ ト音記号は読めるがヘ音記号は読めない ⑤ 全く読めない

以下に集計結果をまとめる。

【15 問 7 の集計結果】

- ① 難なく読める 8名 ② まあまあ読める 29名 ③ 読みにくい 15名
④ ト音記号は読めるがヘ音記号は読めない 2名 ⑤ 全く読めない 5名

楽譜を「難なく読める」という項目においては「難なく読める」及び「まあまあ読める」という読める側の回答が37名(63%)と多く存在した。逆に「ト音記号は読めるがヘ音記号が読めない」を含めた読めない側は7名で12%と少ない。しかし、読むのが苦手と感じ、読む事にかなり時間がかかる学生が実際には多く存在していることが、授業などの学生とのやり取りで確認できる。

その理由としてはたくさんの演奏経験は積んでも、楽譜に関して詳しいことを学ぶ時間やしっかり楽譜を読み込むという学習はこれまでにしてこなかった。多くの学生の場合、小学校低学年において楽譜に関する学習は短い時間のみで、楽譜に書かれていないが読み取れる表現が楽譜上にあることなど、音楽の授業を含め教えられてこなかったことが原因といえる。

(8) うたの趣向性

ここでは、幼い時から歌ってきた保育学科の学生による童謡曲ベスト5について質問を行った。

【16 問 8 の質問内容】

8. 好きな童謡ベスト5は何ですか？

- 1 曲目 () 2 曲目 ()
3 曲目 () 4 曲目 ()
5 曲目 ()

以下に見やすいように50音順での表記と最も多かった童謡10曲を記載する。

【17 問 8 の集計結果】

あ	アイアイ 青い空を見上げて 赤とんぼ あかはなのトナカイ あめふりくまのこ 22名 ありがとうの花 3名 あわてんぼうのサンタクロース 3名 アンパンマン マーチ 4名 アイスcreamのうた 5名 犬のおまわりさん 6名 うみ うれしい ひなまつり おばけなんてないさ 7名 大きな古時計 3名 大きな栗の木の下で 3名 おかえりのうた おしょうがつ 2名 おほしさま おもちゃのチャチャチャ 6名 鬼のパンツ 2名 おはながわらった 思い出のアルバム 11名
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

か	かえるのうた 3名 かたつむり きのこ 2名 きらきら星 くじらのとけい げんこつやまのたぬきさん こぎつね こいのぼり 2名 コンコンクシャン ことりのうた 3名 クリスマス系の曲
さ	さっちゃん さよならぼくたちのほいくえん 5名 さんぽ 2名 しゃぼん玉 3名 ジングルベル 2名 シンドバッド スイカの名産地 2名 すうじの歌 線路は続くよどこまでも 5名 先生とお友達 2名 ぞうさん 5名
た	たきび ちょうちょう 6名 たなばたさま 5名 ちゅーりっぷ 2名 つくしのほうや てのひらをたいように 7名 ドキドキの1年生 とけいの歌 とんでったバナナ 2名 どんな色がすき 3名 とんぼのめがね 2名 トマト 4名 どんぐりころころ 6名 動物園にいこう 2名 ともだちひやくにんできるかな
な	にじ 19名 にんげんっていいな 6名
は	バスごっこ 2名 はしるのだいすき バナナのおやこ 2名 浜辺の歌 ふしぎなポケット 4名 はるがきた 5名 春の小川 ふるさと 僕のミックスジュース ほ！ほ！ほ！ ほよん行進曲
ま	まっかな秋 12名 魔法のじゅもん みずのたび 南の島のハメハメハ大王 3名 虫の声 むすんでひらいて 2名 めだかの学校 16名 もりのくまさん 3名
や	夕やけ小やけ 5名 勇気100% 5名 ゆき ゆりかごのうた

【⑩ 問8の回答】

1人5曲記述できる童謡のアンケートの中で、人気童謡ベスト10は以下の順位であった。

1位 あめふりくまのこ 22名	6位 おばけなんてないさ 7名
2位 にじ 19名	6位 てのひらをたいように 7名
3位 めだかの学校 16名	8位 犬のおまわりさん 6名
4位 まっかな秋 12名	8位 どんぐりころころ 6名
5位 思い出のアルバム 11名	8位 にんげんっていいな 6名

童謡曲の回答に関しては多くの学生が5曲を掲載した。曲に関しては幼い頃から歌ってきた好きな童謡や、それほど知られていない童謡だが、こだわりがあるとみられる曲も寄せられた。また、ちょうどアンケートを行った授業日前後に歌った童謡が頭の中にあり、それらの曲を即座に記載する傾向も見られた。

(9) 音楽を保育にどう関連させるか

続いて保育と音楽をどう関連させていくかについて、自由記述による質問を行った。

【19 問 9 の質問内容】

9. これから音楽を保育にどう関連させていきたいですか？

(

)

その一部であるうたに関して記入を行っている回答を以下に掲載する。

【20 問 9 の回答一例】

- ・ピアノを頑張って練習し上達して子どもたちと楽しく歌ったり、音楽に親しめるようにしていきたいと思う
- ・歌が楽しいと子供に思ってもらえるように歌を楽しく学べる先生になりたいです
- ・季節のイベントなどにあわせて曲を歌ったりして楽しくできるように関連させたい。
- ・子どもが歌うのが楽しい！歌うのが好き！と思えるような保育がしたいと思いました。
- ・みんなで歌うことで1人の時よりも何倍も楽しく歌えることを知ってもらいたい
- ・子どもたちが「音楽や歌うことは楽しいな」と感じられるように、リズム遊びや音あてゲームなど遊びを通して関連させていきたいです。
- ・行事や季節に合わせた歌を歌って生活に関連させて行きたいです。
- ・恥ずかしがらずにエネルギッシュに歌えるような先生になりまた子供達もそうなるように関連させたい
- ・歌と教育を関連させ楽しく学ぶ
- ・音楽は頭に残りやすいと思うので、数字や言葉などを覚えるために歌を歌うなどをしていきたい。
- ・歌を歌って切り替えたり次の行動に繋げられるようにする
- ・歌を通して感性やリズム感を高められるようにしたい。

回答には「分からない」1名を含めて59名全員が回答を行った。その中において問9の質問内容にはうたという文言は入っていなかったが、39人(66%)のうたに関する回答が寄せられた。

「うたを楽しく子どもたちとうたいたい」というものが最も多く、続いて「子どもたちに歌が楽しいと思ってもらいたい」、「うたと教育を関連させる」や、「うたを通じて感性やリズム感を高める」などの意見も寄せられた。

また、この他にも多くの回答は音楽と保育の関連性を答えているものがあり、楽器の記載に関してはピアノが2件あり、そのほか、リトミックや手遊びがそれぞれ1件あげられていた。この質問からは導きにくい面もあるのだろうが、それ以外の回答は記載されていなかった。

3 考 察

これらのアンケートを行った結果、様々な楽器演奏がうたの技術向上にどのような影響を与えているのであるか。アンケート結果をもとに考察していく。

1) 様々な体験

これまでの保育園や幼稚園、小中高においての楽器体験は、特にリズム感・音程・ハーモニー・協調性など、楽器という媒体を通じて音楽活動に取り組み、様々な体験や社会性を獲得してきた。その結果音楽が好きになり、得意だという意識が楽器だけではなく、うたや音楽につながり、音楽を仕事（音楽に触れる仕事）に活かしたいということを考える思いが、保育士や音楽家になりたいという思いを増幅させてきたと考えられる。

2) 培われた器楽教育

幼い頃からの様々な楽器演奏を行うことで育まれる音楽的素養はたくさん存在する。リズム感や音程を正しく採る習慣、正しい姿勢で楽器を操ることやハーモニーを感じることに、吹奏楽器の場合は吹く力(肺活量)を促進し、うたを歌うことにも役立っている。また打楽器の場合は振動(ソニック)を感じることができ、子どもの情操教育にもつながる。

3) 地域活動などの実践

放課後活動や地域が行う太鼓や琴などの様々な習い事は、楽器演奏を通して地域交流にもつながっている。これらの活動は子どもたちの居場所やコミュニケーションの場でもあり、楽器演奏を通じて様々な年代との交流や多くの観客の前で演奏する喜び、緊張感の獲得も可能にしている。

4) ブラスバンドでの楽器・歌唱体験

吹奏楽部ともいわれるブラスバンド活動においては、全国大会を狙う学校もあるが、多くの学校においては楽しさを目標に掲げ、和気あいあいと活動することを目的にクラブに取り組んでいる。学校によってそのスタイルは様々だが、楽器演奏に打ち込むことにより集中力や持続力、縦横（先輩・後輩）のつながり、社会性、協調性、集団活動の意義などを学ぶことができる。

また、学校によっては演奏会のどこかで歌唱を導入し、客席と一体となり観客とともに歌唱を行うクラブも存在する。それらの体験が歌唱力や人前での振る舞い方、自分の見せ方などを学習し、その後の自信へとつながっていく。

5) 楽譜の読解力

小さいころからピアノを習っている子どもに対して、熱心に先生が音楽の基本を一から教えて

いるケースがある。幼少期においては 3～4 段の五線譜などで音符の書き方を教わり、簡単な聴音などを行い、音符カードなどを用いて音階や音程に慣れ親しみ、その後のピアノ演奏により一層自信を持って取り組めるように指導している。

一方、小学校での音楽においては、楽譜の指導に関してト音記号でのドレミの読み方などが簡単に教えられ、ヘ音記号や音楽記号などにはそれほど時間をかけず、すぐに楽器や歌唱に移るケースは今後の音楽活動への負の連鎖へとつながる。

6) 音感教育

絶対音感とは幼少期で確立するという考えもあるが、一方で訓練をすれば大人になってからでも伸ばせるケースも考えられる。先ほども述べたように、ピアノをたたきながら歌のメロディーを何回も聴きながら並行して歌うことで、正しい音程を習得することは可能である。これらは長い時間をかけて楽器やピアノに触れていることで、より研ぎ澄まされた音感が備わり、歌唱やそれ以外においても共通で役に立つ。

7) 高声に対する苦手意識

高音に苦手意識を感じている学生はアンケートと違い、実際には半数以上を占めていると考えられる。高音が出てくると声を出そうとする努力を行わず、すぐに 1 オクターブ下げて演奏してしまう学生が年々増加傾向にある。その理由のほとんどは実声から裏声へチェンジする部分で声が裏返ってしまう。そうになってしまうことを恥ずかしいと思い、恥をかかないようにとの警戒心から楽譜通りの歌唱をあきらめ、オクターブ低いところに音程を下げ、無難に済ませてしまう。その結果、声量も小さい演奏となってしまうことで歌唱の質低下を招く。

8) 声量の減少

上述にもあるように、大きな声が出ない、大きな声を出そうとしない学生が次第に増加していることは音楽教員共通の悩みである。一方、カラオケなどに行くとマイクという拡声器やエコー、音程、音量などが調整できる。機械が自分の声を変幻させる魅力に酔いしれ、学生たちもカラオケの虜となるが、この文明の利器により音楽の授業時には大きな声を出さないという矛盾が行われている。

また、合唱祭はクラス対抗のものが多く、学校行事における花形的存在であり、どの学校においてもクラス、学年間で盛り上がりを見せる。そんなクラス対抗での合唱祭だが、審査員の審査項目の中には声量も大きなウエイトを占め評価の対象となっている。しかし合唱祭においても、声量は年々減少傾向にある。

4 おわりに

幼い時期よりいろいろな楽器経験を行うことにより様々な手法を獲得した学生においては、これまでの経験から歌唱に関しても興味を持ち、うたをうまく歌いたいという意欲につながり、その経験から自信を持ってうたの演奏にも取り組む。

うたは他の楽器とは違い歌詞という音以外の文字があり、その表現力は他の楽器を超える力強さを持つ。うたの魅力や訴えかける力は他の楽器を寄せ付けない説得力を持ち合わせている。

うたは言葉を発しさえすればかたちにはなるので簡単そうに思われがちだが、その構造は複雑で、コントロールするのが一番むづかしい楽器でもある。自分の体から発せられた声がまず体の外に放たれ、その後自身の耳に戻ってくるという構造は、ほかの楽器とは異なり一つ多い行程を踏まなければならないため、自身のセンスや他者からのアドバイスなどが必要である。

長い年月をかけて音楽を続けてきた学生は、楽譜の読解力や音楽用語などの様々な音楽的手法を引き出しとして兼ね備えている。大学生になっても音楽への興味関心と得意だという意識が向上心へとつながり、自信を持って大きな声で歌うことに発展する。またそれをそのままにするだけではなく、より良いものにしていこうという向上心が創意工夫を生み、もっと色んな曲が歌いたいという次への向上心として展開していく。

楽器を習うことで、音楽だけではなくアンサンブルや合奏などを介して、協力する力、お互いを聞きあう協調性、物事を根気よく続けようとする忍耐力や集中力、クラブ活動などでは上下関係などの規律や社会性も体験し養うことが出来る。

「好きこそものの上手なれ」という言葉通り、自分の好きなことを継続することは大切で「継続は力なり」となる。音楽を自信に色んな分野に挑戦し、様々な仕事に展開できる素養を兼ね備える学生を育て、音楽という分野に関わり学生を前に押す出し成長できるように、これからも音楽教員として取り組んでいきたい。

参考文献

- 1) 吉永早苗 (2016) 「子どもの音感受の世界」(心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求)
萌文書林
- 2) 今川恭子 (2016) 「音楽を学ぶということ」(これから音楽を教える・学ぶ人のために)
教育芸術社
- 3) 加藤徹也 (2018) 「音楽の授業づくり (中学校 新学習指導要領)」
明治図書出版株式会社
- 4) 岩本達明 (2021) 「やんば先生の楽しい音楽！」(音楽指導ブック)
音楽之友社

- 5) 小林満 (2010) (教育や保育に携わる人々のための)「新・声楽指導教本」
(児童・幼児教育課程・保育士養成課程用)

教育芸術社

- 6) 城佳世 (2022)「たのしくできる歌唱共通教材の授業プラン」

学事出版株式会社

(ゆい ひろたか：教授)

(やまだ ちさと：准教授)